

ADVANレーシングタイヤインフォメーション

2008年 SUPERGTシリーズ第1戦

2008.3.16

SUZUKA GT 300km



2008年は横浜ゴム(株)の「ADVAN」ブランド誕生から、ちょうど30年目となる節目のシーズン。振り返れば10年前の1998年、ADVANは全日本GT選手権GT300クラスにおいて、3年連続でチャンピオンに輝いただけでなく、つちやMR2が6戦5勝という圧倒的な強さを見せた。さらにさかのぼること10年、1988年には全日本F3000選手権、GCシリーズそれぞれで初優勝を飾るなど、節目の年には必ず歴史に残る金字塔をADVANは打ち立ててきた。

もちろん、今シーズンも新たな金字塔を立てるべく、チャレンジするカテゴリーのひとつがSUPER GTシリーズだ。日本の最高峰シリーズは、今シーズンも全9戦が開催される。ADVANはGT500クラスに出場するTOYOTA TEAM TSUCHIYA、KONDO Racingとのパートナーシップを継続。それぞれ表彰台の中央を目指す。

TOYOTA TEAM TSUCHIYAは、引き続き熟成されたトヨタ・レクサスSC430で参戦。ECLIPSE ADVAN SC430を託されたのは土屋武士、昨シーズンのGT300王者でもあるルーキーの石浦宏明だ。一方、昨シーズンのセパンラウンドで優勝を飾っているKONDO Racingは、車両をニッサンGT-Rにスイッチ。ドライバーはジョアオ・パオロ・デ・オリベイラと荒聖治で変わらず、WOODONE ADVAN Clarion GT-Rを走らせる。

開幕戦の舞台である鈴鹿サーキットは、典型的な高速テクニカルサーキットだ。主だったコーナーでは絶えずダウンフォースがかかり、ブレーキングを要するのはほんの数カ所とあって、タイヤにはグリップのみならず、

高い剛性も必要とされる。そのあたりをふまえ、2月29日から3月1日にかけて行われた公式テストを含み、オフの間に繰り返されてきたテスト



の結果、求められる要素をすべて備え、かつ摩耗性にも優れたタイヤが完成。両チーム、そして4人のドライバーからも高評価を得ることになった。また、ウエット用タイヤに関しては、ブレーキング時のグリップ感に欠ける、との指摘に対応し、新たに17インチのリヤタイヤを投入する。

一方、GT300クラスでは昨シーズン、チームタイトルを獲得したプライベートKENZOアセット紫電の高橋一穂/加藤寛規組を筆頭に、およそ6割に相当する15台にADVANレーシングタイヤを供給、サポートを行う。GT300クラスではリストラクター径が変更されてパワーダウンは否めぬ一方で、全体のパフォーマンスを下げぬようタイヤを進化させてバックアップ。前後のバランスや安定感、摩耗性に従来から高い評価を得ていたことから、今シーズンは舵の追従性がより重視されることとなった。

鈴鹿での開幕戦はADVANユーザーが3年連続で優勝を飾っており、極めて相性抜群。うち2勝をフェアレディZが挙げていることから、ダイシンADVAN Zの青木孝行/藤井誠暢組は間違いなく優勝候補の一台。また、前出の紫電やORC雨宮SGC-7の井入宏之/折目遼組なども、確実にトップ争いを繰り広げてくれるだろう。

両クラスともソフト、ミディアム2種類が用意されるが、GT500クラスでは急激に温度が下がったり、よほど路面コンディションが悪化しない限り、基本的に使用されるのはミディアム。逆にGT300クラスは、摩耗状況に問題さえなければソフトが使用される。なお、今回用意されるADVANレーシングタイヤは1400本だ。



2008年 SUPERGTシリーズ第1戦用ADVANタイヤラインアップ

		GT500	GT300
ドライ用 スリック	構造	1種類	1種類
	コンパウンド	2種類 (S、M)	2種類 (S、M)
	サイズ	330/710R18、330/710R17	280/710R18、280/680R18、 280/650R18
ウエット用 レイン	構造	1種類	1種類
	コンパウンド	2種類 (S、M)	2種類 (S、M)
	サイズ	330/710R18、330/710R17	280/710R18、280/680R18、 250/650R18

30th
ADVAN
Since 1978

ADVANDライバーストピックス

TOYOTA TEAM TSUCHIYA ECLIPSE ADVAN SC430



土屋 武士 Takeshi Tsuchiya

去年は不連続で悔しい思いを何度もしたんですが、その一方でタイヤの開発はものすごく進んで、ようやく軸となる基本構造とコンパウンドができ上がりました。その手応えはすごくあって、合わせてクルマの開発スピードも上がってきたのが去年のこと。今年は同じクルマを正常進化させて使っていますから、すごくいいテストができました。ルーキーと初めて組むことになりましたが、もともと先生と生徒という関係でしたから、全然心配はありません。むしろ、今年のウチは石浦だけじゃなく、全体のポテンシャルが高い、そんな自負もあるぐらいです。

僕個人としては、勢いのあったフォーミュラ・ニッポンの頃とか、GTで連続36戦出走、入賞した頃の安定感を融合させて、全戦でばく進みたい。もうGT500では外国人ドライバーを除けば、本山(哲)さんの次の年長クラスなので、一戦、一戦を集大成としていいレースしていきたいし、自分が培ってきたものを若い石浦にフィードバックしていきたいと思っています。

つちや たけし
1972年11月4日生まれ、神奈川県出身。カートレースを経て、92年かFJ1600に出場、オートボリスでデビューウィンを飾る。F3を経てGTには98年から出場、GT300で通算4勝を挙げた後、00年よりGT500に活躍の場を移す。ランキング最上位は05年の3位



石浦 宏明 Hiroaki Ishiura

SCに初めて乗った時、強く感じたのは、これは完全にフォーミュラだな、と。MR-Sに乗っている時も同じように感じたんですけど、改めて500のクルマに乗ると、あっちは半分ハコだったんだな、と。鈴鹿の走り方なんてフォーミュラ・ニッポンにかなり近い。スピードは低いんですけど、アクセルオンとかオフのタイミングはまるで一緒なんです。景色は違うんですけどね。何が違うというか、MR-Sに比べていちばん困ったのは前が見えないこと。ボンネットが長いものですから(笑)。左前がどこにあるんだか苦しみましたが、今はちょっとずつ慣れてきました。

それにしても、我ながら良くここまでたどり着けた……と思いますね。フォーミュラトヨタでは、なかなかステップアップできず苦労しましたから。ここ数年ずっと勝負の年になっていますが、今年のGTに関しては焦らず取り組んでいくつもりです。安心して任せられるとか、ちゃんと帰ってこれるとか、安定してラップを刻めるとか、そういうところで自分をアピールしていこうと思っています。

いしうら ひろあき
1981年4月23日生まれ、東京都出身。99年からカートレースを始め、フォーミュラトヨタに03年から出場。3年目の05年に2勝を挙げてランキングは3位。F3では通算3勝し、昨年はランキング4位。併せて出場したSUPER GTでは2勝し、GT300ドライバーズ王座に輝く

KONDO Racing WOODONE ADVAN Clarion GT-R



ジョアオ・パオロ・デ・オリベイラ

Joao Paulo Lima De Oliveira

今年もまたKONDO Racing、そしてADVANとともにレースができることを非常に光栄に思う。昨年、たくさんの経験を積ませてもらったおかげで、自分の開発能力、特にタイヤに関してはすごく進歩させられたと思うし、そういうあたりは今まで以上に頑張っていくつもりだよ。

もちろん、昨年のハイライトはマレーシアのレースで勝ったこと。非常に過酷なレースだったし、ライバルが苦しんでいる中、自分たちのパフォーマンスを最大限に発揮できたから、非常に誇らしく感じたし、僕の中でもすごく自信になった。今年のシーズンエンドにも、同じような感じでみんなに報告ができれば最高だね! きっと、それが可能だと信じているよ。SUPER GTはいろんなクルマが走っていて、非常にパフォーマンスレベルが高いから、とても戦い甲斐がある。まして今年ドライブするGT-Rは、とてもファンタスティックなクルマだからね! 僕の中のベストシーズンとなることを今は信じて疑っていないよ。

Joao Paulo de Oliveira
1981年7月13日生まれ、ブラジル出身。南アメリカF3選手権を経て、01年よりドイツF3選手権に出場。3年目の03年にチャンピオンに輝いた後、来日して全日本F3選手権を戦う。05年には王座を獲得。昨年はフォーミュラ・ニッポンでランキング8位、最上位は2位



荒 聖治 Seiji Ara

昨年、マレーシアで勝てたこともさることながら、その後の後半戦は安定していて、レースの強さもあったと思うんですよ。そのあたりを今年は伸ばすことにトライしていきたいですね。GT-Rに変わること、それに合わせていく必要はありますが、そもそもクルマのポテンシャルが上がっているんで、ドライバーとしてはすごく楽しみ! まわり以上に僕らは進化していますから、今年も1勝と言わず、勝てるだけ勝ちたい。そう言える根拠は、ウチがドライバー不動で開発やタイヤの使い方、そういうのが途切れることなく継続できているアドバンテージが絶対的だと思うからなんですよ。

ゼロからではない、一歩先行った段階からスタートできるので、今年は開幕からそこそこのポジションを狙っていくつもり。去年は最初の何戦かは苦戦してしまったり、不安定な順位になったりしていたんですけど、今年は開幕からプッシュできる環境を作ってもらったんで。まあ、とにかく体が引き締まる思いです。ものが揃っているから、どんなそういう意識は高まってきていますね。

あら せいじ
1974年5月5日生まれ、千葉県出身。94年にVWゴルフカップに出場してチャンピオンに輝いた後、アメリカで2年修行。97年に帰国してF4、F3を戦う。04年にはアウディR8を駆り、日本人としてはふたり目のル・マン24時間レース総合ウィナーに輝く